

今月の先生

教員歴15年目以上の進路担当の先生！

毎回テーマに沿って4人の先生にご登場いただく本企画の5回目は「教員歴15年目以上の進路担当の先生」。ベテランの先生ならではの「大切にしていること」や「信条」を伺いました。

1つの質問に4人の先生が本音で答える

先生 TALK!!

vol.5

Q1 ≡ プロフィール

[FILE NO.1]



千葉商科大学付属高校(千葉・私立)
進路指導部(部長)
英語担当
小中頼宏 先生(教員歴27年)

[FILE NO.2]



倉吉西高校(鳥取・県立)
進路指導部、2学年主任
数学担当
竹歳真一 先生(教員歴27年)

[FILE NO.3]



広島国際学院高校(広島・私立)
進路指導課(課長)
英語担当
小川健一 先生(教員歴15年)

[FILE NO.4]



甲府第一高校(山梨・県立)
進路指導部(主任)
英語担当
野澤俊英 先生(教員歴27年)

Q2 ≡ 教員を志した理由

父の影響で英語に興味をもち、どうすればわかりやすく人に教えることができるか、勉強したことが頭に残るかなどを大学で学びました。この道を選んだ決め手は教育実習。実習初日に停学処分になった生徒との関係が、最初はごちなかったのですが、最後はわかりあえたような気がしました。そのことが印象的で、やりがいのある仕事だと思ようになりました。

中国の孔子の教えや寺子屋などに影響を受け、次の世代に数学の魅力を伝えていきたいと思いました。一方で、小さい頃から耳が悪かったので医学部を志望したこともあったし、世界を見たくて大学時代には商社への就職とも迷いました。結局、教員になってからも世界を見たい気持ちは変わらず、アメリカやマレーシアの学校で教えることも経験しました。

実は中学の頃から勉強が苦手になり、高校受験もうまくいかなかったんです。高2の終わりに将来を考え、目標とする大学ができたため、中学校の勉強からやり直しました。大学生のときは塾講師のアルバイトを経験。勉強が苦手だった生徒ができるようになる姿を見ることは自分の経験とも重なって喜びを感じ、この道を選びました。

両親が教員だったこともあり、ずっと教員志望でした。高校の教師の「教員は人をつくる」という言葉は今も胸に刻まれています。大学の教育実習では手がかかる男子から「先生は輝いている。がんばってね」という感想をもらい感動！決意が固まりました。英語を選んだのは、NHKラジオ「基礎英語」のテキストに載っていた外国の紹介に憧れたから。

Q3 ≡ 教員として大切にしていること

よく卒業アルバムにサインを頼まれます。その時に「出会いと別れのお手伝い」と書きます。あつという間の高校3年間を振り返って、卒業式で「この学校で過ごせて良かった」と思ってもらいたいです。だからこそ、常に生徒への愛情を忘れず、私自身がなるべく多くの生徒に声をかけるように心がけています。そのために同僚の先生方との連絡も密にしています。

知っていることや教科書に書いてあることだけを伝えるのではなく、頭を下げ、人に会い、人とつながり、話を聞き、情報を収集する…そういう学び続ける姿勢を大切にしています。常に前よりもいい授業、今日がいちばんいい授業になることを目指しています。また、学年主任として、プロ集団である教員チームをまとめることも意識しています。

1番目は生徒にチャレンジさせること。今の世の中は努力して何かをつかみとるというより、あるものから選び、行けるところに行くという風潮です。でも、高校3年間はチャレンジできる期間。何かをやり遂げてほしいと思います。2番目に大切にしていることは寛容さ。厳しいだけではなく、生徒がやりたくなる気持ちになるまで待つことも必要だと考えています。

常に大事にしたい、忘れてはいけないと思っているのは、「教員という仕事は、何かを教えるだけではなく生徒の心を育てている」のということ。また平日頃、生徒に向かって「努力しなさい」と話している以上、自分も努力しなくてはならないと思っています。進路・進学情報の収集、授業の準備、自分の勉強…。実際はなかなか思うようにできていませんが…。

Q4 ≡ 最近嬉しかった出来事

謝恩会で保護者の方に言われたことがあります。「ウチの子が先生の親父ギャグを家族に披露して、家族全員が笑っていた」と。そして最後に「子どもが先生に会えて良かった」と言っていました」と聞いたときに、涙が出そうになりました。また新学期に「先生の授業を受けられて嬉しい」と言われたときに、やる気が倍増します。

今の2年生が1年生のときから学年主任でした。だから2年生になった最初の集会で、生徒が言われなくても整然と並んだ姿を見たとき、生徒の成長を感じられて嬉しかったです。また、生徒が本気になって一生懸命何かに取り組んでいるときはワクワクしますね。これは若手教員に対しても同じで、成果を見せてくれると自分のことのように嬉しいです。

ある生徒が国立大学に合格したものの第1志望ではなかったため浪人。翌年も不合格で、私立大学に進学しました。その生徒と保護者がたずねてきてくれて「苦しいことにチャレンジして良かった」と。保護者も「浪人した1年間で子どもが成長した」とおっしゃってくださいました。その生徒の1年間が無駄ではなかったことが嬉しかったです。

卒業生が自宅にお礼のハンカチを送ってくれたこと。担任はもっておらず、進路担当として励ましたことに対するお礼でした。生徒のためになったと思える瞬間がやはり嬉しいです。プライベートでは、高校卒業以来運動をしていなかったのですが、思い立ってトレーニングを始め地元のマラソン大会に出場。5kmの部で完走できたこと。自分なりの努力の証です。

Q5 ≡ 最近気になっていること

新たに採用になる若い先生が増えるなか、ベテランとなった我々世代が奮起して今までの経験をもっと若手の先生に積極的に伝え、学校スタッフ全員のチームワークを高め、良い循環を生まなければならぬと感じています。そうすることで学校行事が充実し授業(ICTやAL)のレベルが上がるなど、さまざまなかたちで生徒に還元されていくのではと思います。

かつては世界を支配しているのは欧米だと思っていましたが、今はアジアが台頭しています。マレーシア、中国、台湾などの学校では数学を英語で学んでいて、日常的に英語を使うのは当たり前。日本だけが英語教育も遅れていると同じ土俵に上がっていないことが心配です。日本はいい国です。賢く勤勉な国民性なのにもったいないと思っています。

進路課長として今いちばん気になるのは、大学入試制度の改革によって、センター試験に代わる新テストがどうなるか。公平性が失われないか、経済的負担がかからないかなど、気になる点は多々あります。今のセンター試験にも問題はありますが、入試改革が大人の都合によるものではなく、子どもにとって良いものになるように願っています。

3年後に迫った大学入試の改革が気になっています。今の中学3年生が受験するときには、テスト内容、仕組みが大きく変わると考えると、もうすぐそこまで来ていると言えます。私たち教員や学校はその変化に対してどのように対応していくべきか、いつも頭から離れません。特に英語は外部テストの活用が増えると考え、もっとも変化の大きい教科かもしれません。

Q6 ≡ 今後、挑戦してみたいこと

自分ができないことや自分できなかったことを、生徒にやらせようとしていることがあります。まず自分から変わっていかなくてはいけないと思っています。わかっているけれど、これがなかなかできません。だから、できそうなところから…。心に刻むのは「Change before you have to. = 変わらざるを得ない状況になる前に自ら変われ」という言葉です。

海外で活躍する日本人は英語が上手なわけではなく、度胸がありキャラクターもユニーク。知っている単語を羅列するだけでも何とか伝わることを伝えていきたいです。また、本当のアクティブラーニングの授業をする本を目指しています。みんなが自分の意見を言えて、できる生徒はほかの生徒を導き、学び合うことで相乗効果が生まれる授業が理想です。

総合的な学習の時間」の探究的な学習や進路指導、キャリア教育をトータルに捉え、3年間を通したオリジナルのテキストを作りたいと考えています。学年やコースによる特色が出るのもいいのですが、もっと全般的な仕組みを考えたい。県内で最も生徒数が多い学校なので、まずは活躍している卒業生に協力を仰ぎ、学校独自の取り組みを実施したいです。

英語教育をはじめ英語に関する書籍をできるだけたくさん読みたいと思っています。そして、読んで良かったものは、授業でも生徒たちに紹介するようにしています。また、秋にも県外の5kmマラソンに出場予定。今後年に2回ぐらいは出場しながら距離も延ばせれば…。こういう目標は、自分にプレッシャーをかけるためにも、どんどん職員室で言うようにしています。

Q7 ≡ 進路担当としての言葉や信条

こう生徒に伝えています。「進路とは、これから“進”む“路”(すずみち)のこと。高校卒業後の進路だけではなく、進学・就職してからも、また結婚してからも、だれもが一生涯続ける「永遠のテーマ」です。進路を考えることにゴールはありません。だから悩み、考え続けるものなのです」と。私も生涯、悩み考え続ける人間のひとりとして、生徒に寄り添っていきたくです。

選択に迷ったときは、「どちらがより成長できる道か」を考えるようにアドバイスしています。生徒たちには未知の世界を切り拓くような人生を送ってほしいと考えています。また、よく生徒に言うのは「部活でも勉強でもいいから、1日5時間は熱く過ごせ」という言葉。その経験を重ねることで目標を決めたらやり抜く力が育っていくと思います。

高校で進路を決めるということは、職業に直結する決断を迫られることもあります。けれども先行きは読めない思い通りにもいきません。そんななか、高校3年間で一生の財産として残るような何かをチャレンジしてほしい。何を考え、何をやったかが大切。今日1日のがんばりが必ず将来につながります。この学校で良かったと思えるような3年間を過ごしてください。

堀川高校の元校長の荒瀬先生がおっしゃった「木は光を浴びて育つ。人は言葉を浴びて育つ」という言葉に共感。生徒の成長のために、励ましの言葉をかけ続けていきたいです。「模試良かったね」「部活がんばっているね」「何かあったらいつでもおいで」…ひとりでもこういう言葉がけを続ける教員がいれば、学校全体に広がっていくのではないのでしょうか。